

第4学年 社会科学習指導案

1 単元 北九州市や県の伝統・文化

2 指導観

- 本学級の児童は、1学期、学習時間に聞こえてきた太鼓の音に「もうすぐ戸畑祇園大山笠が始まるね。」「昨日は菅原神社の近くで戸畑祇園太鼓の練習をしていたよ。」と嬉しそうに話したり、夏休みの日記には「戸畑祇園山笠の競演会に参加したよ。」「わっしょい百万夏まつりに行ったよ。」と書いてあったりと、県内の年中行事や本校校区と関係の深い戸畑祇園大山笠について知っていることや経験したことを伝える姿が見られた。しかし、学級全体としては、実際に祭りに参加したり見に行ったりした経験をもつ児童は少ない。1学期の社会科見学では、たくさんの方付きをメモすることができていた。また、具体的な資料を基に調べる力があり、人々の取組の意味や意義を考える力はつきつつある。しかし、地域の伝統や文化を支える人々の取組やその奥にある願いについて考えることや、それを自分事として考える力や態度は十分といえないところがあり、この単元を通して工夫をしながら力をつけ伸ばしていく必要がある。
- 本単元は、学習指導要領第4学年の内容の(4)のアの(ア)及び(ウ)とイの(ア)をもとに設定したものであり、「200年続く『戸畑祇園大山笠』について、歴史的背景や現在に至る経緯、保存や継承のための取組などに着目して、教科書や資料集、保存振興会の人のお話などを基に調べたりしてまとめ、『戸畑祇園大山笠』の様子を捉え、人々の願いや努力を考え表現することを通して、年中行事を人々が受けついできたことや、地域の発展など人々の様々な願いを理解できるようにするとともに、地域の伝統や文化の保存や継承に関わって自分たちにできることなどを考えようとする態度を養う」ことをねらいとしており、本学級の児童にとって価値がある単元と考える。また、身近で誰でも参加できる地域の「三六子ども山笠」を取り扱うことで、より効果的にねらいにせまることができると考える。
- 本単元の指導に当たっては、次の手立てをとる。

【着眼1】地域教材の工夫

本校校区「三六地区」は、西大山笠と中原大山笠の2つの大山笠を持つ地区であると同時に（戸畑には全部で4つの大山笠がある）、子ども山笠を持つ特色のある地域である。近年、「三六地区」でも子どもの減少などによる地域の衰退が問題視されており、魅力ある地域社会をつくり出すことが求められている。しかし、その一端を担うはずである地域の伝統的な祭りや行事が、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて中止になったり、その行い方や在り方自体が見直されたりしている。そこで児童が身近に感じられる「三六子ども山笠」を取り上げ、保存・継承のための人々の努力や、山笠に携わる人々の地域の活性化や人々のつながりへの願いなどについて学ぶことで、祭りの意味をより深く考えることができるようにする。

【着眼2】問題解決的な学習過程の工夫

まず、「つかむ段階」では、戸畑祇園大山笠の歴史や祭りの様子をとらえ、関心をもたせるとともに、保存・継承のための工夫や努力に対して問いをもち、学習問題を立てることができるよう、現在と昔の祭りの写真や年表を提示し比較させる。「さぐる・考える段階」では、本校の子どもたちが参加できる身近な祭り「三六子ども山笠」を取り扱い、学びを深めるための問いを新たに設ける。また、子ども山笠に携わる人々の願いや努力について具体的に調べることができるよう、三六地区の町内会会長を中心とした祭りに携わる人から話を聞く場を設定する。「生かす段階」では、祭りに携わる人々の願いや努力を捉え、これからの戸畑祇園大山笠の

保存・継承のあり方について考えることができるように、戸畑祇園大山笠がこれからも続いていくために自分ができる取組を提案する場を設定したり、調べて分かったことや考えたことをキャッチコピーにしてまとめる活動に取り組みせたりする。さらに、県内の他の祭りや年中行事に込められた願いや保存・継承のための努力をとらえることができるように、それぞれの祭りや年中行事の保存・継承に携わる人の話を紹介したり、戸畑祇園大山笠との共通点を考えさせたりする。

【着眼3】社会的な見方・考え方を働かせた表現活動の工夫

ホワイトボードを活用して祭りに携わる人と参加者の思いや願いを『ふきだし』にまとめ表現するようにする。友達と話し合い、思いや願いを加筆・修正していくことで、「三六子ども山笠」を続けていく意義についての考えを広げ深めるようにする。

3 目標

知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ○ 戸畑祇園大山笠やその他の県内の文化財や年中行事には、地域の人々が受け継いできたことや、地域の活性化や人々のつながりなど様々な願いが込められていることを理解することができる。 ○ 歴史的背景や現在に至る経過、保存・継承のための取組などについて、教科書や資料集、保存振興会の人の話などを基に調べ、まとめることができる。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史的背景や現在に至る経過、保存・継承のための取組などに着目して、戸畑祇園大山笠やその他の県内の文化財や年中行事に込められた人々の願いや保存・継承のための努力を考え、表現することができる。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県内の文化財や年中行事について関心を持ち、歴史的背景や現在に至る経過、保存・継承のための取組などについて進んで調べ、粘り強く学習の問題を解決しようとする。


4 指導計画(総時間 10時間)

学習活動	○ 主な指導上の留意点	【観点】評価規準 (評価方法)
1 戸畑祇園大山笠について、知っていることや自分の経験等を話し合い、祭りへの関心や調べる意欲をもつ。 ①	<ul style="list-style-type: none"> ○ 戸畑祇園大山笠の始まりや歴史に関心をもつことができるように、年表を現在からさかのぼりながら途中まで提示する。 ○ 「人々の楽しみ」「戸畑の風物詩」になっていったことを押さえることができるように、実際祭りに参加した児童の日記を紹介する。 	【主】戸畑祇園大山笠について関心を持ち、意欲的に話し合っている。 (行動観察、ノート)
2 戸畑祇園大山笠について、学習問題や予想、学習計画を考える。 ①	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保存・継承のための工夫や努力に対して学習問題を立てることができるように、昔と現在の戸畑祇園大山笠の写真を比較したり、年表を提示したりする。 	【思】保存・継承のための工夫や努力に向かう学習問題やそれに対する予想や考えを表現している。 (ノート・発言)
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 【学習問題】 戸畑祇園大山笠は、どのようにして220年間もつづけられてきたのだろう。 </div>		
3 戸畑祇園大山笠	<ul style="list-style-type: none"> ○ 戸畑祇園大山笠の始まりや歴史について調べることが 	【知】資料を基に、戸畑

<p>の始まりや歴史について調べる。 ②</p> <p>4 戸畑祇園大山笠に携わる人々の取組について調べる。①</p> <p>5 戸畑祇園子ども山笠に携わる人々の取組について調べる。①</p> <p>6 戸畑祇園子ども山笠を続けていくわけについて話し合う。 【本時】①</p>	<p>できるように、精選した戸畑祇園大山笠の資料を提示する。</p> <p>○ 祭りの雰囲気や祭りに携わる人々の取組などをより身近に、より具体的にとらえることができるように、「大山笠」に携わる人と実際にふれあわせる。</p> <p>○ 祭りの雰囲気や祭りに携わる人々の取組などをより身近に、より具体的にとらえることができるように、資料を通して「子ども山笠」に携わる人の話を紹介する。</p> <p>○ 祭りに携わる人々は地域の人たちのつながりを大切にしていることを理解することができるように、「三六子ども山笠」のよさについて話し合わせる。</p>	<p>祇園大山笠の始まりや歴史を調べ、ノートにまとめている。 (発言、ノート)</p> <p>【知】戸畑祇園子ども山笠を保存・継承するための取組を調べ、ノートにまとめている。 (発言、ノート)</p> <p>【思】地域の人々の願いと戸畑祇園子ども山笠に携わる人々の努力とを関連づけて考え、適切に表現している。 (発言、ノート)</p>
<p>7 これからの戸畑祇園大山笠の保存・継承について考える。①</p> <p>8 戸畑祇園について、調べてわかったことや考えたことをキャッチコピーにまとめる。①</p> <p>9 県内で行われている年中行事や県内の他地域で行われている祭りについて調べ、暮らしとの関わりや人々の願いについて話し合う。①</p>	<p>○ 戸畑祇園大山笠がこれからも受け継がれ、長い歴史を刻んでいくために大切なことについて考えることができるように、「広げる」「守る」「意味」という3つの視点でこれからの戸畑祇園大山笠の保存・継承について話し合わせる。</p> <p>○ わかったことや考えたことを自分の言葉で表現できるように、「これからも祭りが続くためには」というテーマでキャッチコピーを書かせる。</p> <p>○ それぞれの祭りや年中行事の保存・継承に携わる人の話を紹介したり、戸畑祇園大山笠との共通点を考えさせたりする。</p>	<p>【思】これからの戸畑祇園大山笠の保存・継承について、戸畑祇園大山笠に携わる人々の努力や願いを基に考え、適切に表現している。 (発言、ノート)</p> <p>【知】戸畑のまちの人々が受け継いできた戸畑祇園の様子や保存・継承する人々の努力や願いを理解している。 (ノート、作品)</p> <p>【主】戸畑祇園大山笠以外の祭りや年中行事に関心をもち、地域社会の一員としての社会生活に生かそうと考えている。 (発言、ノート)</p>

5 本時の学習

- (1) 日時 令和5年11月22日(水)5校時 於 4年1組教室
- (2) 主眼 大山笠と三六子ども山笠の様子を比較し、子ども山笠のよさを見付け、祭りに携わる人々の努力や取組を基に、それにかかわる人々の思いや願いについて話し合う活動を通して、人々のつながりや地域の活性化など様々な願いについて考えることができるようにする。
- (3) 準備
教師・・・ホワイトボード・学びの足あと・GIGA端末・デジカメ / 児童・・・ノート
- (4) 展開

主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点 【観点】評価基準(評価方法)
<p>1 これまでの学習を基に大山笠と三六子ども山笠の取組を比較し、違いを見つける。</p> <p>【大山笠と三六子ども山笠の違い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女関係なく、小さな子どもたちが参加できる。 ・三六町内を練り歩く。 ・父母も子ども一緒に歩く。 <p>2 本時の学習のめあてをつかむ。</p>	<p>○ 前時に調べた学習が本当に保存・継承につながる取組だったのか改めて考えることができるように、「三六子ども山笠の全ての取組が伝統を守ることにつながっているのか。」という視点で振り返り行っている児童の振り返りを取り上げる。</p> <p>○ 大山笠にはない子ども山笠のよさがあるのではないかと気付くことができるように、子ども山笠のお世話をしている方の話を取り上げる。</p>
<p>(めあて) 伝統を守る以外に、子ども山笠のよさとは何だろう。</p>	
<p>3 三六子ども山笠に関係する人々の思いを、取組を基にしながら考える。</p> <p>【思考の構成】 (ホワイトボードミーティング)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">(個人)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">(全体)</p>	<p>○ 子どもだけでなく、他の立場の人たちにとってもよさを見つけることができるように、「祭りに携わる人」「子ども(女の子)」などの立場に分けて思いを考える。</p> <p>○ ホワイトボードミーティングの際、児童の考えを深めたり広げたりすることができるように、理由を問い返したり、関連した考えをもつ児童を意図的に指名したりする。</p> <p>○ 児童の考えを「地域の人とのつながり(地域を大切にする思い)」「祭りの楽しみ」などの視点に分け、板書の構造化を図る。</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 45%;"> <p>子どもだけでなく、祭りに携わる人や地域の人にもどんなよさがあるのかな。</p> <p>祭りに携わっている人は、祭りによって人がつながってうれしいんじゃないかな。</p> <p>女の子は中学生になったら祭りに参加できなくなるから、だれでも子ども山笠に参加できて、うれしいと思う。</p> </div> <div style="width: 10%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 45%;"> <p>地域の人たちとつながりができていくのがうれしいよね。</p> <p>地域の方は、家の前で演奏してくれてうれしいはず。</p> </div> </div>	

4 戸畑祇園子ども山笠を地域の人がつながって行くための取組や祭りに込めた願いについてGTの話を聞く。

5 本時の学習をまとめ、次時の学習への見通しをもつ。

○ 児童の成就感や行動意欲を高めることができるように、GTに児童の考えを賞賛していただいたり、児童のアイデアと地域の人々がつながる取組を結び付けて話していただいたりする。

(まとめ) 子ども山笠には、伝統を守る以外にも、地域のみながつなったり、みんなで祭りを楽しんだりできるというよさがある。

私も「子ども山笠」に参加して、自分も地域の人たちと仲良くなりたいです。



○ GTに「三六子ども山笠」の保存・継承の悩みについて話していただき、「みんなも祭りがずっと続くようにみんなもできることはないだろうか」と問いかけ、次時の学習の見通しをもつことができるようにする。

【思・判・表】祭りに携わる人々の努力や取組を基に、それにかかわる人々の思いや願いについて話し合う活動を通して、人々のつながりや地域の活性化など様々な願いについて考えることができるようにする。(ノート記録・発言記録)